

【一般口演2】 第10席**古林書堂本『素問』『靈枢』の音釈について**

神奈川 上田 善信

古林書堂本は『素問』と『靈枢』とを一組にして刊行されたもので、初期刊本の様子を残している版本の一つであり、それに付けられている音釈もまた重要な資料である。

音釈とは、難解な文字に対する注音と解釈であり、其の重要性については、以下のように要約することができる。

- ①テキストの成立や刊行を考える手懸りとなる。
- ②校勘上の重要な資料となる。
- ③経文を解釈する上での資料となる。

演者は数年前、現伝の最善本である影宋顧從徳本『素問』と明刊未詳本『靈枢』の音釈について考察したことがあり、『靈枢』の音釈は南宋・史崧が付けたもので版本間の相違は小さく、『素問』では版本間の相違が著しいばかりでなく、『靈枢』よりも早期（南宋初期）に音釈が付けられたと一応の結論を得た。しかし、『素問』では古林書堂本と影宋顧從徳本とは音釈の体例、注音字などがかなり相違している。今回は古林書堂本『素問』の音釈を中心に考察を行うことにする。